

平成 25 年度 広島市立袋町小学校 研究推進計画

1. 学校教育目標

「よく考え、思いやりの心をもつ、元気な子どもを育てる」

2. 研究主題

「伝えあい学びあう、袋町っ子の育成」

－各教科等の学習における「伝える力」の向上

(児童の学びを見とり、児童相互をつなぐ授業づくりをめざして)－(1年次:三年次計画)

3. 研究主題設定の理由

本校では、三年次計画で「言語活動を通して、自ら学び表現する、袋町っ子の育成」という研究主題を設定し、各教科等の学習を通して研究を深めてきた。各教科等の学習活動に共通するものとして言語活動に焦点を当て、思いを表現し、互いに認め合う力の育成に向け、基礎・基本の確実な定着、意欲的で充実感のある学習活動を展開してきた。

本校の児童は、各教科等で言語活動を積み重ね、思いを書き表したり、その思いを絵や図、グラフなどにして話したりする力を身に付けてきた。しかし、一方で、表現が一方通行的であったり、場にそぐわない方法であったりすることに気づかずに表現し続けていることに課題がある。これは、自分の考えや思いを表現したい、聞いてほしい(見てほしい)という気持ちの高まりや、その必要性を感じていないことが原因ではないかと考えられる。また、聞く側の児童も聞くことの必要性や聞くことによる学習の深まりや広がりを実感できていないのではないかと考えられる。

伝える力が向上することにより、聞く側の児童からの反応を引き出すことにもつながる。そこで、学習に相互方向での思考が生まれ、「学びあう場」となる。学びあうことは、一人では解決が難しく友だちとの協力が必要な児童の学習に対する意欲を喚起させるだけではなく、一人ひとりが個別に学習した知識をさらに深め広げることができ、個の学習の質の高まりがみられることが期待できる。

また、児童の伝える意欲を高めるためには、教科・単元(題材)・本時のめあてにそった学習活動が行われているかという点、さらに、児童の知的好奇心を適切に満たしているかという点において、児童の様子を適切に見とり、その見とりを今行われている授業に生かしていく教師のコーディネート力が必要とされる。

そこで、本年度は、研究主題を「伝えあい学びあう、袋町っ子の育成」の一年次とし、これまで培ってきた各教科における言語活動と国語科における「A 話すこと・聞くこと」の重要性を踏襲しつつ、相手を意識した「伝える」ことを通しての学びの集団を目指した授業づくりを研究していくこととする。

4. 研究の内容・方法

(1) 基礎的・基本的な知識・技能を定着させる取組

- ア. 教育活動全般における、「伝える」ことを意識した表現方法の獲得や表現力の向上
- イ. 国語科「A 話すこと・聞くこと」の指導の充実

(2) 各教科において、表現力を充実させるための取組

- ア. 各教科において、「表現する・伝える」活動を取り入れた計画
- イ. 各教科における、評価と指導の一体化をめざした授業展開の工夫
- ウ. 授業実践と授業公開

(3) 一人ひとりが安心して学習できる学級づくりをめざす取組

- ア. グループ会での情報交換，授業の計画の交流
- イ. 月に一度の児童の様子ของ報告会

5. 研究計画

◎これまでのシリーズ公開研を継続する。全授業，協議会をもつ。また，できるかぎり講師を招聘し指導助言を受ける。

○全体研修会…低&通級・中&専&特&通級・高グループ&通級，学年から1授業を全体研修会とする。全教員参加。司会・記録は教務部

○グループ研修会（G研）…授業は低&特・中&専・高グループで参加。協議会では，授業分析を中心に行う。他のグループは授業をやりくりして，少しの時間でも授業を観察する。その後，協議会に参加する。司会・記録は持ち回りで。

◎指導案・各教科の取組の検討は，全授業分，夏季休業中に行う。後期後半の授業に関しては，指導案の変更も考えられるので，必要に応じて，グループで検討する。

月	日（曜日）	研修体制	担当	教科	授業カット
4月	25日（木）	全体研	研修担当	推進計画	—
5月	29日（水）	指導案検討	金子（金子学級）	自立活動	—
6月	11日（火）	全体研	金子（金子学級）	自立活動	◎他の曜日に研修会が組まれた場合は，木曜日の午後と他の曜日の午後の時間割を入れ替える。（グループ研の場合は，グループ学年のみの入れ替える）
	27日（木）	指導案検討	網代（2年2組）	算数科	
7月	中旬	未定	網代（2年2組）	算数科	
8月	下旬	指導案検討	全員	—	
9月	中旬	未定	岡田（6年1組）	算数科	
	下旬	未定	中野（4年1組）	音楽科	
10月	中旬	未定	原田（2年1組）	図画工作科	
11月	中旬	未定	内藤（5年2組）	言語数理運用科	
	下旬	未定	伊東（4年1組）	国語科	
12月	月上旬	未定	唐井（5年1組）	理科	
1月	下旬	未定	荒本（1年1組）	生活科	
	下旬	未定	内山（3年1組）	算数科	
2月	下旬	全体研	研修担当	研修のまとめ 次年度の方向性の検討	

6. 授業提案と研修のまとめ

○学習指導案（添付資料）・各教科の取組は、できるだけ研究授業日の二週間前までに研修担当者に提出する。（→担当指導主事に送ります。）グループで増刷・綴じ込みをし、全教職員に配布する。

※指導案の形式は、各教科研究会の形式でよい。

※当日までに、変更があった場合は、その部分を印刷し再配布する。（講師の分は研修担当か教頭・校長へ）

○研修のまとめは、以下の要領で行う。

①全体研は教務部、G研は各自で記録を行う。

②下の書式で、授業者が【本時の伝えあう活動】と協議会後の【考察】を作製する。【協議会より】は記録者が簡単に記述しておく。データはサーバー内のシート（N:\¥old_data¥共有¥サーバー¥新システム：平成25年度¥校務分掌部¥教務部¥平成25年度 研修¥授業のまとめ）に名前を付けて保存し、ペーパーは1部研修担当に渡す。

【例】

○月○日（△曜日）	袋町 花子	算数科（6年：およその面積）
本時の伝えあう活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを図や式で表したいという気持ちをもって取り組む。 ○友達の考えに興味をもち、聞いてみようとする。 ○友達の考えを受け、自分の考えを深める。（新しい考えを発見する） 	
協議会より （研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートをたくさん用意していれば、もっと自由に（躊躇せず）表現でき、その分伝えたいという気持ちを高めることができたのではないか。 ◎子どもの発言や説明に、教師がかかわりすぎていた。もう少し、児童の自由な発想や、つたない説明に任せてみてもよいのではないか。その方が、児童の「何？」「聞いてみよう。」という気持ちをもたせることができるのではないかと思う。 ◎スクリーンを使って、友達の考えを見て共有できたことは、聞いて自分の考えを深めることにつながったと思う。 	
考察 （授業者）	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の考えたことは意欲的にあわらそうとしていた。相互に交換して説明する活動など（小集団での集団解決の場合）があれば、伝えようとして、さらに表現が深まったのかもしれない。 ◎どの子も自分の考えをもてていたし、何とか図や式に表して表現しようとしていた。課題設定としては興味のもてる内容だったと思う。 	

